

一中だより

令和7年4月14日

第1号



作成者：荒川区立第一中学校長 小柴 憲一

あいさつ

4月1日から、前任の 岡本芳明 校長を引き継ぎ第一中学校の校長として着任いたしました小柴憲一 といいます。本校に着任する前は、区内第三中学校で5年間、校長として経営をしてまいりました。大先輩の岡本校長の後を引き継ぐということで身が引き締まる思いですが、早くに子どもたちや地域の様子を把握し、第一中学校を前進させていきたいと考えております。

さて、私は他地区でも校長をしてきた経緯がございますが、次の2つの理念は変わっておりません。

- 1 一人一人の子どもを大事にする
- 2 社会を構成する一員としての自覚を高める

「一人一人の子どもを大事にする」というのは教員として当然のことと考えております。子どもによって特性は異なりますが、どのような特性のある子どもでもこの世に誕生してから、これまで保護者の方の深い愛情により育ててきたことに変わりはありません。乳幼児のころに夜泣きが激しかったり、一語文を発するのが遅くて心配をかけたりした子どももいるでしょうし、中学生になるまで、大きな病気やけがをした子どももいるでしょう。

保護者の方がこれまで大切に育ててこられたお子さんだからこそ、私はどの子どもも大事にしなければならないと考えております。私は、私自身の態度でそれを子どもたちに示していきたいと考えております。

「社会を構成する一員としての自覚を高める」というのは子どもたちが中学生という発達段階だからこそ必要なことなのです。

中学生になると思春期を迎えるようになり、保護者とは異なる自分独自の内面があることに子どもたちはすでに気付いています。また、大人との関係よりも友人関係に強い意味を見出し、大人からの評価よりも仲間同士の評価を意識するようになります。

つまり、自立し始め自分たちの世界をつくり始めようとする時期なのです。だからこそ、自分たちの世界をつくるのなら、社会に目を向けさせ、社会から学び、望ましい世界をつくらせたいのです。それが、委員会であったり学級・学年であったりし、それらの自治活動を経験して、社会を構成する一員としての自覚が高まっていくものと考えています。

一中の子どもたち一人一人を大事にし、一人一人が社会を構成する一員としての自覚が高まっていくよう経営してまいりたいと思います。

最後に、第一中学校は PTA ではなく ISC(一中サポートクラブ)という名称で活動している、他校にはない保護者の方々の活動があると、前任の岡本校長から聞きました。サポートしていただくというのは学校としては大変ありがたいことです。なぜなら、教職員だけでは分からないことやできないことはたくさんあるのが現実であり、それらをご支援していただくことにより、子どもたちへの教育活動がより一層充実してまいります。

保護者の方にとっては、すべてがボランティアではありますが、どうか ISC を通して学校をサポートしていただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

1学期が始まる

新2・3年生だけで行われた始業式では、1学年進級したという緊張感が感じられました。

特に3年生はいよいよ最後の年度、1年に1回の行事は何もかもが最後になるという心構えと、

その先には進路決定という壁を越えなければならないという覚悟が漂っていました。

2年生は、明日には後輩が入学してくる、1年前の自分たちの姿を見ることができる、部活動で3年生が引退したら自分たちが最高学年になる、2学期の生徒会役員選挙を経て自分たちの学年が生徒会の中心になるという意気込みが見られました。

そのような中ですが、私からは年度の初めにあたり以下の話をいたしました。

令和7年度が始まりました。

クラス替えをしたばかりで気持ちもそわそわしているところかもしれませんが、1点だけ話をさせていただきます。

お話ししたいことは皆さんの生徒会力を高めるということです。

生徒会というのは、会長を筆頭とする数名の本部役員のことではありません。ここにいる生徒全員の集まりのことを生徒会といい、皆さん一人一人が生徒会を構成する一員なのです。

また、私は、学年の集まりとして、例えば3年生徒会、委員会の集まりとして生活委員生徒会などと言うことがあります。今年度のスタートダッシュをきるに当たっては、3年生徒会の強い自治の力を発揮してほしいと思います。

自治とは、自分たちで自分たちを治めるということであり、自治の力が高い集団の中では、たとえばいじめをしにくい雰囲気があったり、立場の強くない人を守ろうとする風土があったりします。また、そのような組織は、生徒会が結束して爆発的な力を発揮することもできます。

そのような3年生徒会を作っていくためには、各専門委員会の生徒会が自分たちの役割を積極的に果たし、時には声をかけたり、時にはキャンペーン週間や強化期間を設けたりしていくのが効果的です。

そうやってできあがった3年生徒会の姿を、2年生や入学してくる1年生に見せて、下級生が3年生を目標に自分たちの学年生徒会力を高めていこうという循環になってもらえればと思います。

先生方が、ひとつひとつ注意したり、指導したりするなどの、皆さんにとってマイナスの経験をするよりも、自治の力で治めた方が自分たちで一中を作りあげているという実感も湧いてきて、「やった感」がでてくると思います。

まずは、3年生徒会の活躍に期待していますということをお話して、私の話を終わります。

意図したことは、先ほども述べました「社会を構成する一員としての自覚を高める」とこと、最高学年になった3年生にその模範となしてほしいという気持ちがあったということです。

始業式の翌日には、滝口 学 荒川区長もお招きし入学式が挙行されました。93名の新入生は、今年度から導入されたブレザー型の標準服に身を包み、これから始まる中学校生活に夢と希望を抱きながら入学式に臨み、新入生代表の 石橋 明佳 さんが新入生代表として、新入生誓いの言葉を立派に述べました。

私たち新入生は、本日より、荒川区立第一中学校の一員となりました。穏やかな風が吹き、若葉が芽吹くこの季節にみなさんと入学をむかえられたことをとても嬉しく思います。そして、6年間協力してきた仲間や支えてくださった方々への感謝の気持ちを忘れずに、新たな中学校生活を前向きに頑張っていきたいと思います。

私は小学校で金管マーチングバンド活動をしていました。その中で、友達と教え合い協力する大切さを学びました。それは、友達と協力すれば、一人ではできないようなことでも成功させることができるということです。その経験をこれからの中学校生活にも生かし、他の小学校から入学した新しい仲間と協力して、充実した中学校生活にしたいです。

私は、中学校生活で努力したいことが2つあります。1つは、何事も全力で取り組むことです。勉強や部活動、何に対しても全力で取り組みます。これからは、定期テストなどがあるので、日々の学習をかかさないようにしたいです。もう1つは、規則や約束を守ることです。学校で決められた規則や、人との約束をきちんと守り、楽しく充実した中学校生活を送りたいです。

今日ここで話したことが、中学校を卒業する時には、「達成できた」と自信をもって言えるように中学校での日々を大切に過ごしていきたいと思います。

最後になりましたが、校長先生をはじめ先生方、先輩方、どうぞ私たち新入生を宜しくお願い致します。